

当社のIR活動ご紹介

2013年8月22日

味の素株式会社
財務部 IRグループ

目 次

I. 会社概要

- 1) 会社概要 P 1
- 2) 会社の歴史 P 2

II. 情報開示

- 1) 情報発信の基本方針 P 6
- 2) コーポレートコミュニケーション体制 P 7
- 3) IR組織体制 P 8
- 4) IR活動年間スケジュール P 9
- 5) 連結業績とIR活動変遷 P10
- 6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定 P12
- 7) 株主構成変遷 P17

III. IR活動の留意点

- 1) 開示の一貫性・連続性 P18
- 2) 課題の開示 P21
- 3) 的確・迅速な情報開示 P24
- 4) 自己株式取得 P28

IV. 今後の課題

- 1) 今後のIR活動の課題 P29

I. 会社概要

1) 会社概要 (2013年3月期)

本社所在地	東京都中央区京橋1-15-1
創業	1909年
従業員数	27,518人
資本金	798億円
売上高	1兆1,724億円
営業利益	712億円
法人数	112
(内 海外法人数)	67
法人展開エリア	26の国と地域
販売国	130

2) 会社の歴史

① 1909年創業

佳良にして廉価なる調味料を造り出し滋養に富める粗食を美味ならしむることにより
国民の栄養不足を解決する

新しい価値の創造



東京帝国大学
池田 菊苗 博士



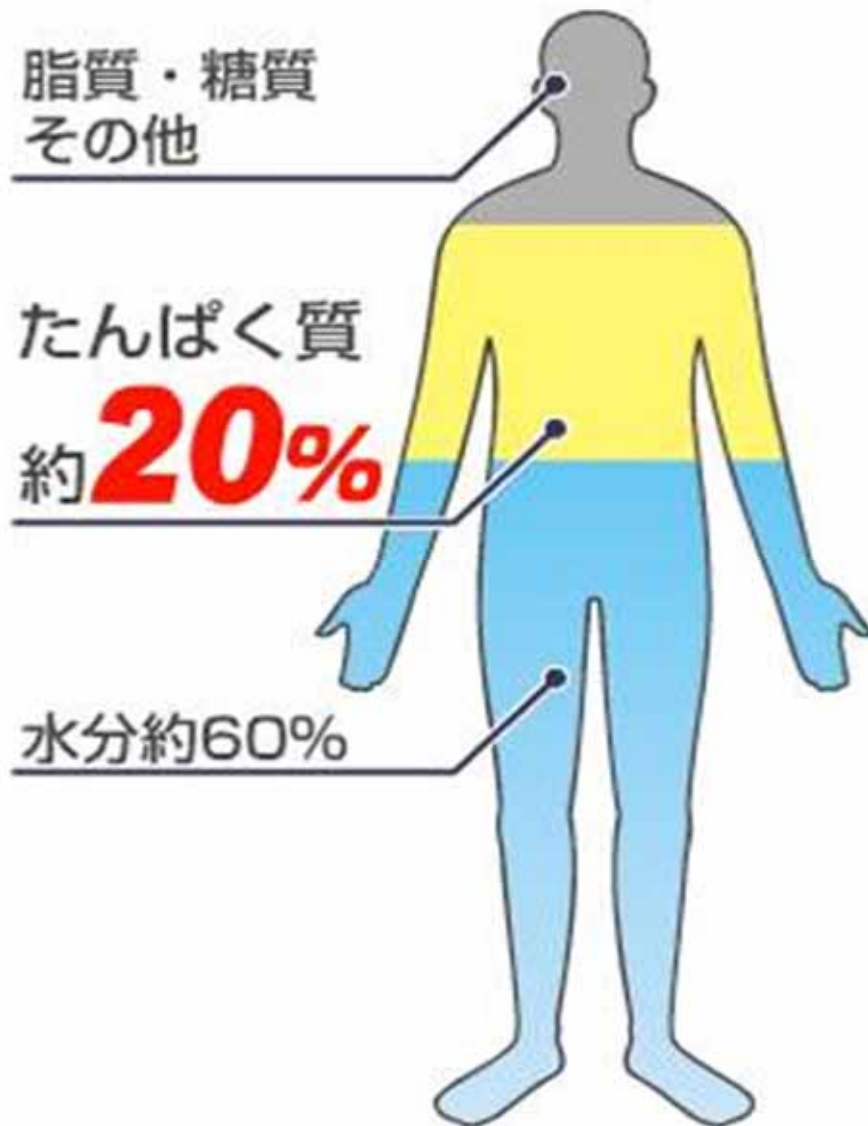
開拓者精神



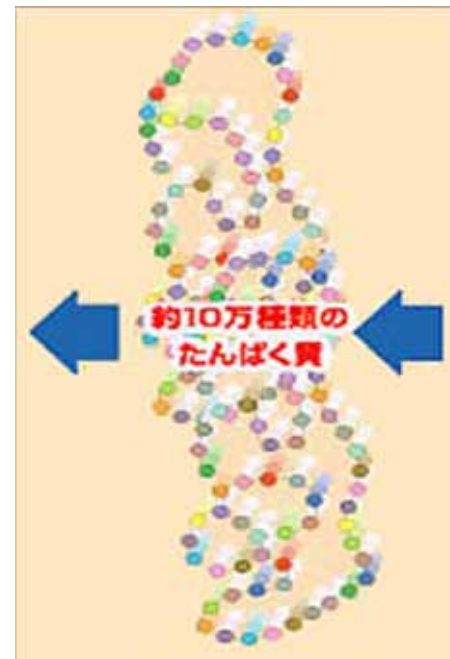
創業者
鈴木 三郎助

2) 会社の歴史

② アミノ酸とは



タンパク質を構成する 20種類のアミノ酸



● アラニン	● スレオニン
● バリン	● シス테인
● ロイシン	● チロシン
● イソロイシン	● アスパラギン
● メチオニン	● グルタミン
● トリプトファン	● リジン
● フェニルアラニン	● ヒスチジン
● プロリン	● アルギニン
● グリシン	● アスパラギン酸
● セリン	● グルタミン酸

- ◆水分が約60%
- ◆タンパク質・脂質・無機質・糖質
- ◆タンパク質が全カラダの約20%を占める
- ◆タンパク質は20種類のアミノ酸より構成
→皮膚、筋肉、骨、臓器、血液、ホルモンなどを構成

2) 会社の歴史

③ 事業の多角化



2) 会社の歴史

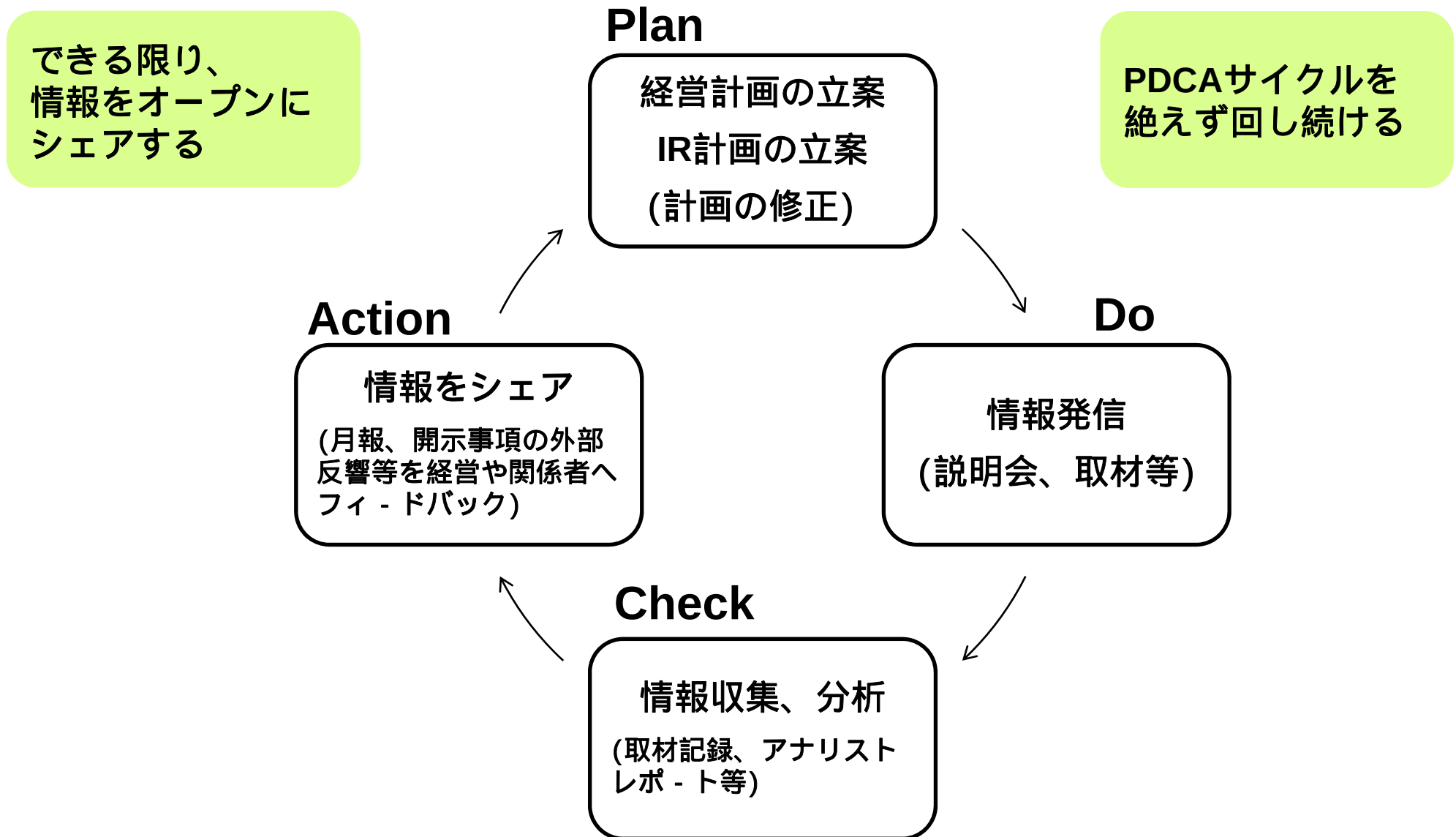
④グローバル展開

1908 (明41)	池田菊苗“うま味”の発見
1909 (明42)	「味の素」発売開始
1917 (大 6)	ニューヨーク事務所開設
1918 (大 7)	上海事務所開設
1924 (大13)	川崎工場全面移動
1927 (昭 2)	シンガポール事務所開設
	香港事務所開設
1929 (昭 4)	台湾事務所開設
1956 (昭31)	アメリカ味の素社設立
	ブラジル味の素社設立
1958 (昭33)	フィリピン味の素社設立
1960 (昭35)	タイ味の素社設立
1961 (昭36)	マレーシア味の素社設立
	ドイツ味の素社設立
1968 (昭43)	ペルー味の素社設立
1969 (昭44)	インドネシア味の素社設立

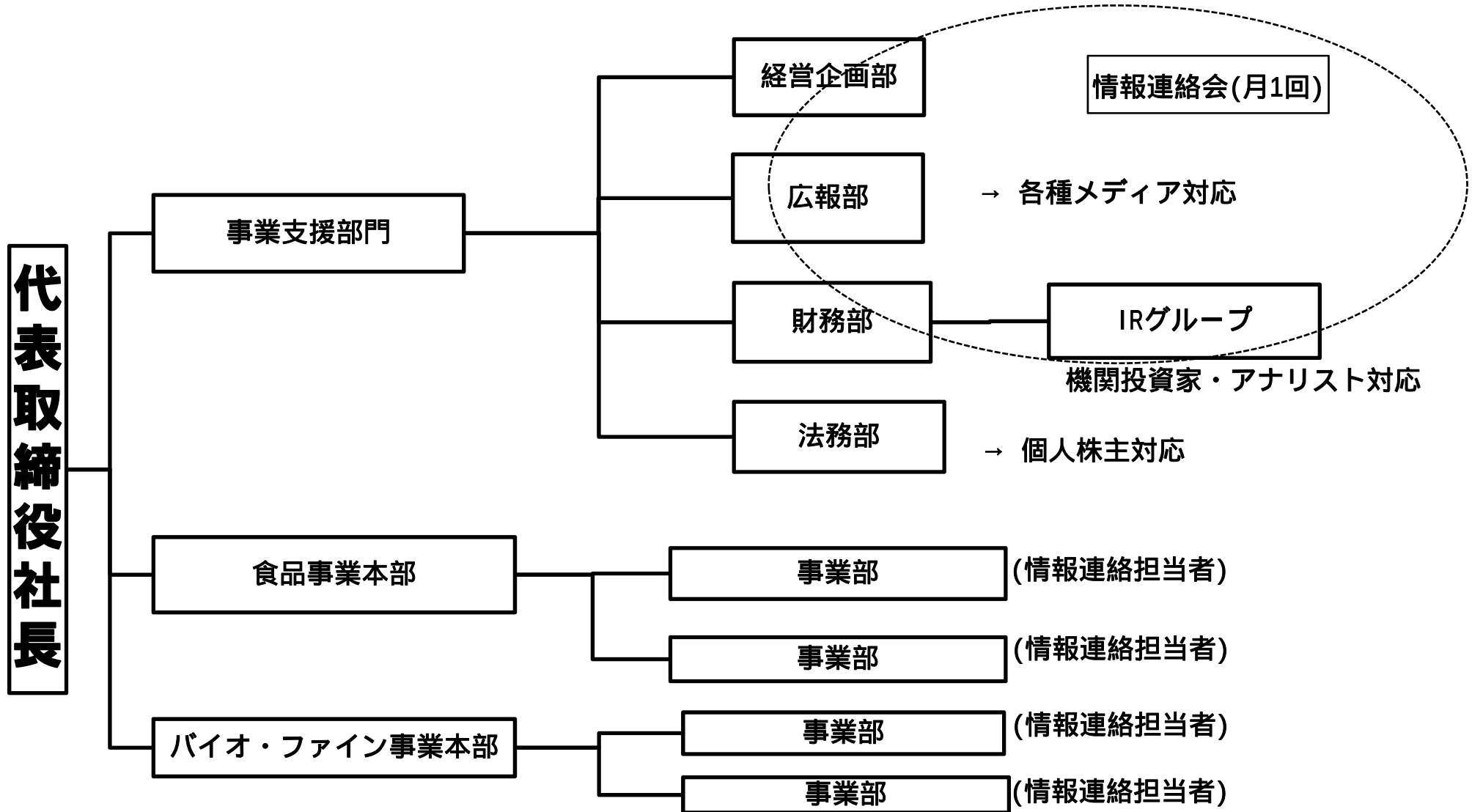
1973 (昭48)	シンガポール味の素社設立
1974 (昭49)	ユーロリジン社 (仏) 設立
1975 (昭50)	日清味の素アリメントス社 (ブラジル) 設立
1991 (平 3)	ベトナム味の素社設立
	ウエストアフリカンシーズニング社設立
1996 (平 8)	味の素 (中国) 社設立
2001 (平13)	上海ハウス味の素食品社設立
2003 (平15)	欧州味の素食品社設立
	インド味の素社設立
2006 (平18)	アモイフードグループと経営統合
2009 (平21)	カンボジア味の素社設立
2011 (平23)	イスタンブール味の素食品販売社 (7月)
	バングラデシュ味の素社 (8月)
	エジプト味の素食品社 (10月)
2012 (平24)	西アフリカ味の素社 (1月)

II. 情報開示

1) 情報発信の基本方針



2) コーポレートコミュニケーション体制

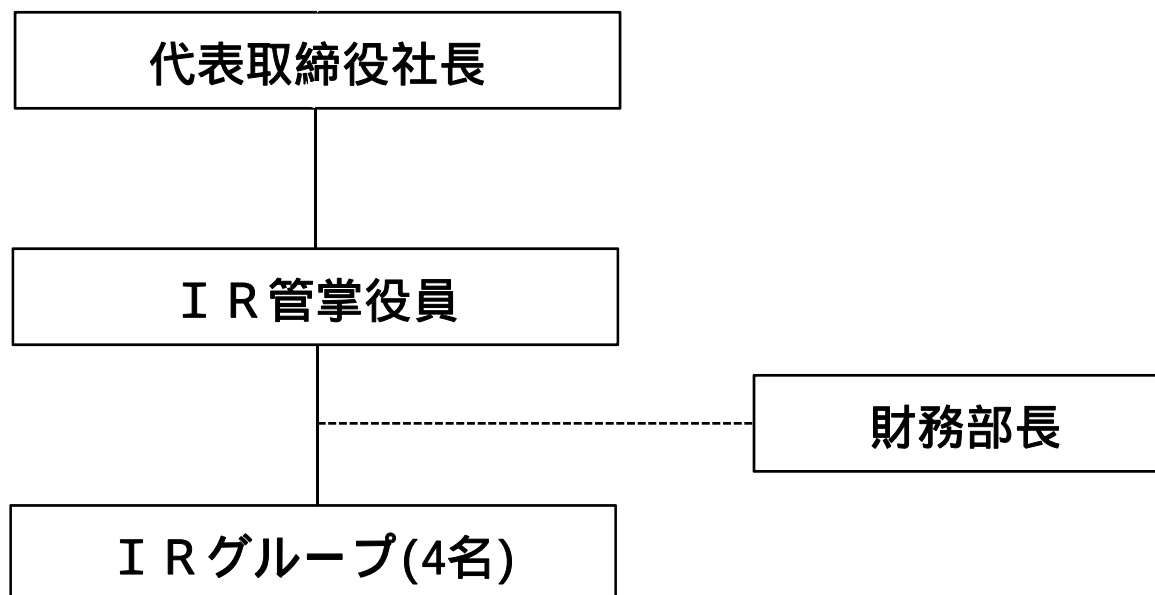


3) IR組織体制

①IR担当部門

- (1) 1999年 広報部にIRグループ設置
- (2) 2000年 財務部にIRグループ移設

②IR部門構成

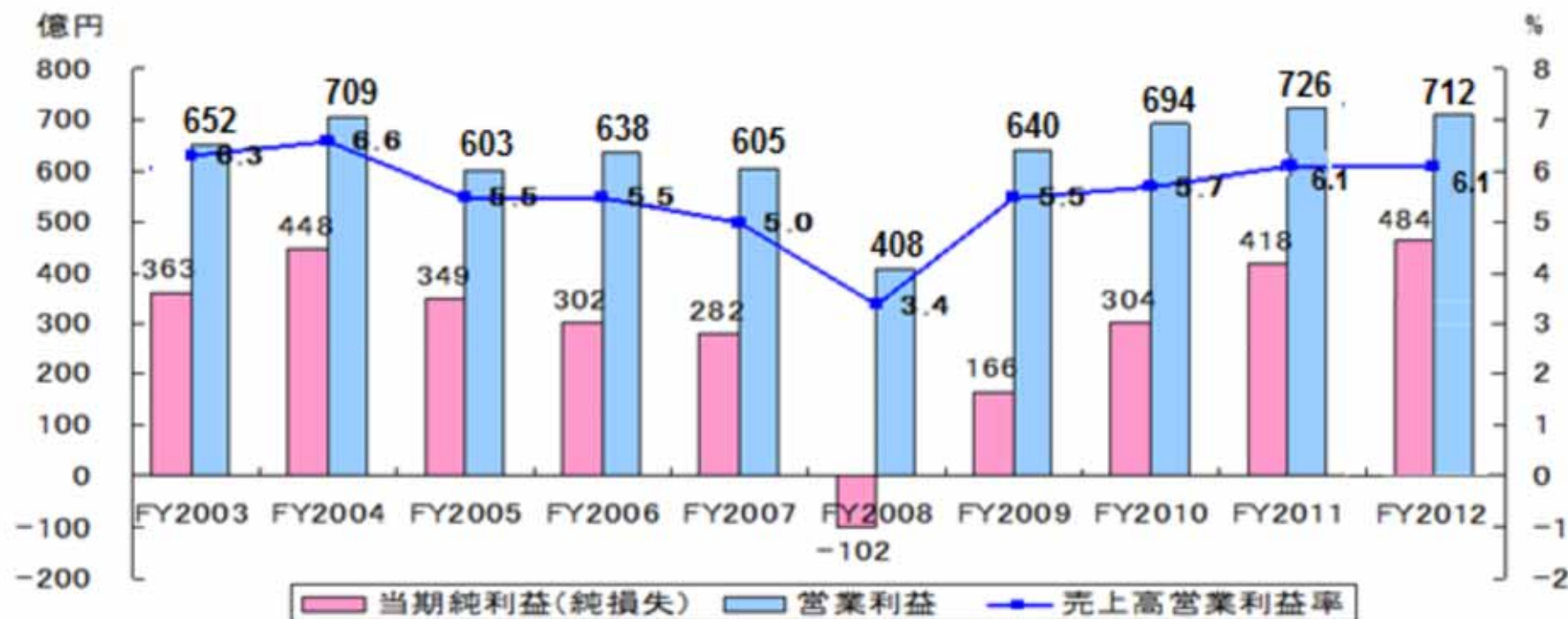


4) IR活動年間スケジュール(2012年4月～2013年3月)

活動項目	活動実績	備考
決算説明会	2回	5月、11月
社長主催スモ - ルミ - ティング	8回	セルサイド4回、バイサイド4回
国内カンファレンス	6回	証券会社主催
証券会社主催スモ - ルミ - ティング	19回	業績全般
役員の国内機関投資家訪問	2回	6月、12月で合計24社
個別事業説明会	4回	海外食品、医薬、ESG関連2件
国内事業所見学	1回	川崎工場
海外ロードショー	5回	欧州、英国(ロンドン、エジンバラ、ヨーク)、シンガポール、香港、ボストン
海外カンファレンス	2回	NY、香港
海外事業所見学	2回	タイ、ブラジル
国内・海外IRミーティング	350件	スモールミーティングを含まず

5) 連結業績とIRグループ活動変遷

① 過去10年の業績



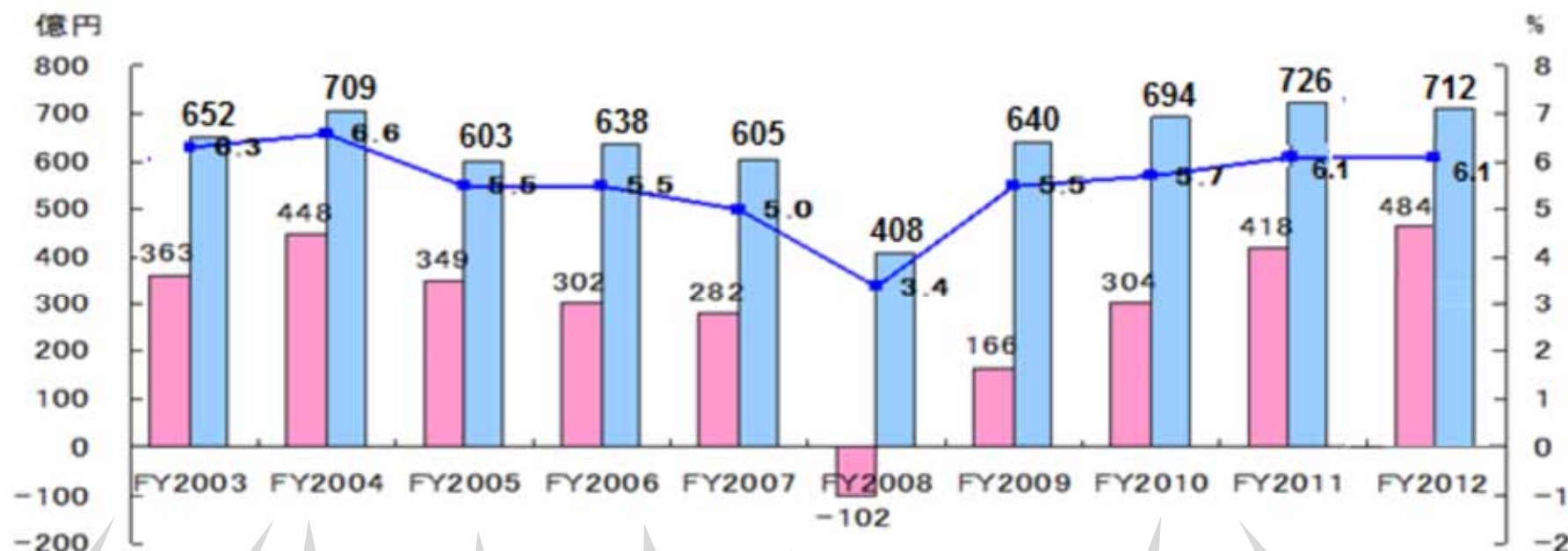
	FY2003	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012
売上高	10,396	10,730	11,068	11,585	12,166	11,904	11,709	12,077	11,973	11,724
営業利益	652	709	603	638	605	408	640	694	726	712
当期純利益(純損失)	363	448	349	302	282	-102	166	304	418	484
設備投資	509	581	792	764	628	583	441	458	568	484
減価償却費	399	399	403	451	552	552	554	498	437	425
コストダウン			87	73	61	97	74	49	27	34
原燃料影響*1 (-:損)			-40	-85	-97	-230	135	-140	-170	-58
為替影響*2 (-:損)	-22	3	-30	4	-35	-32	-79	-79	-47	46

*1 FY05原油のみ、FY06原油&発酵原料、FY07以降原油&発酵原料&国内食品原料

*2 FY04以前は換算為替のみ、FY05以降は換算為替+貿易為替

5) 連結業績とIRグループ活動変遷

② IR活動変遷



1999
IRグループ
発足

コーポレート
ガバナンス
の強化

05/10
中長期
経営計画
説明会・
スモール
ミーティング
実施

IR活動の
重要性を
経営陣と
共有

社長
国内機関
投資家訪問・
海外IR
を開始

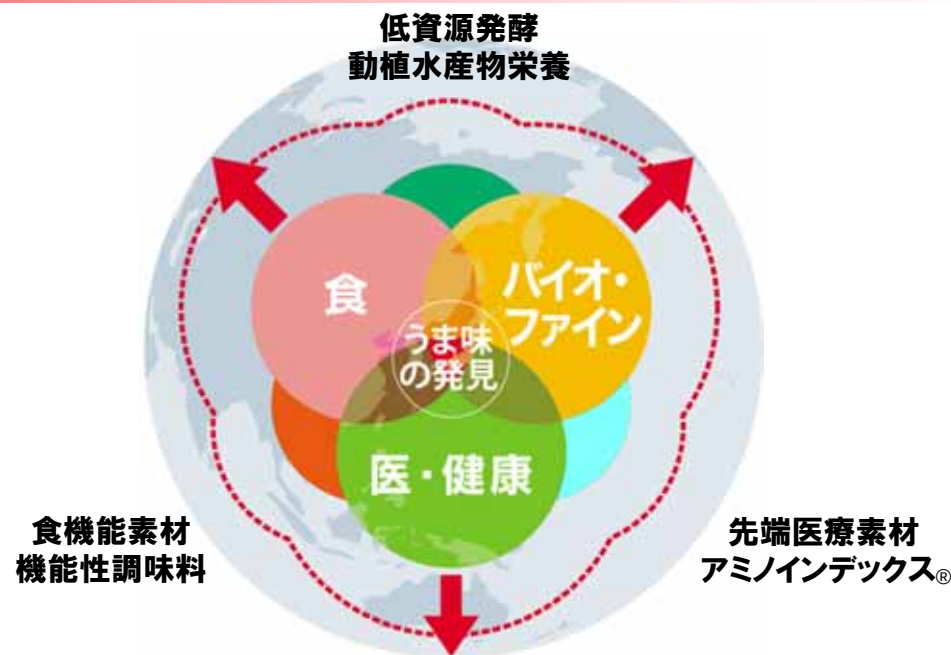
社長主催
バイサイド
スモール
ミーティング
年2回
開催

社長主催
セルサイド
スモール
ミーティング
年2回
開催

11-13
中期
経営計画
説明会・
スモール
ミーティング
実施

6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定

① 味の素グループビジョン



21世紀の人類社会の課題解決



地球持続性

環境、資源の循環



食資源

非可食原料の活用



健康な生活

不足栄養・過剰栄養の改善
高齢化への対応

6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定

② 2011-13中計: 目指すグループ像

地球規模で成長し続ける 「確かなグローバルカンパニー」

～ Genuine Global Company ～

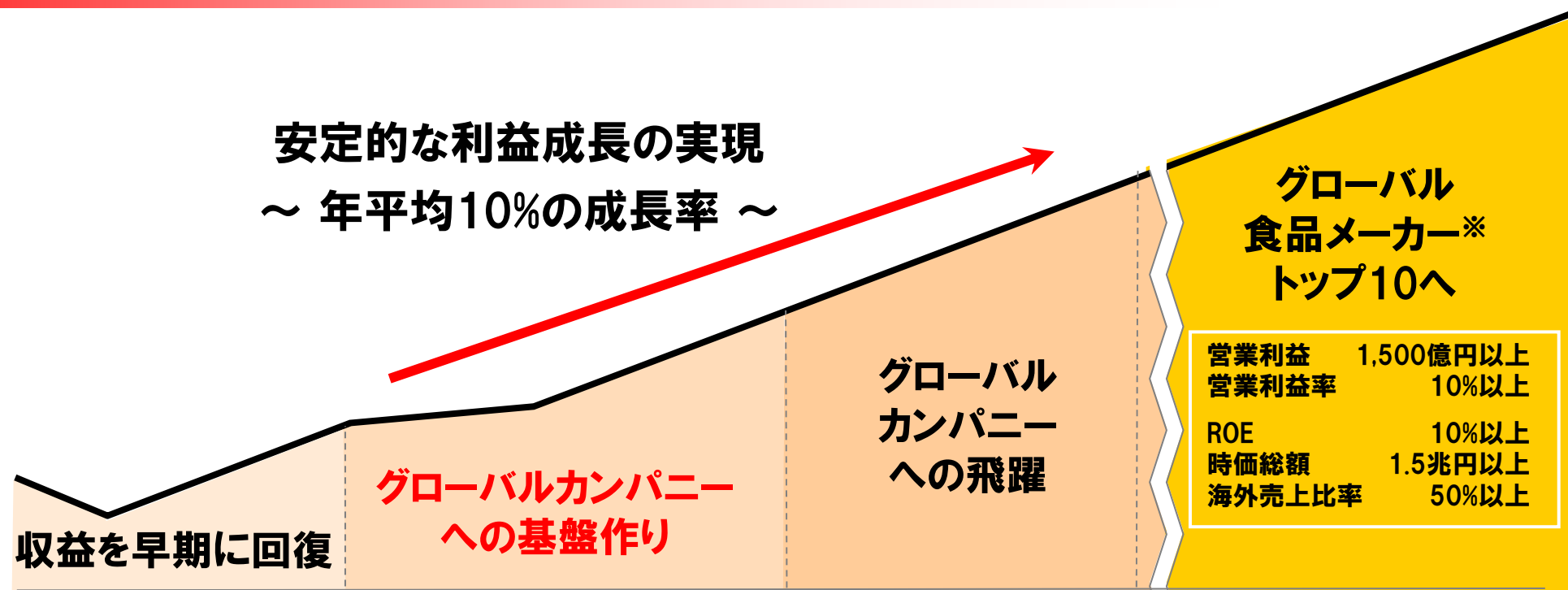
おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

- ① 人と地球の**未来の進歩**に貢献する
- ② 当社だけの「**世界一であるコアな技術領域**」を有する
- ③ 「**世界レベルの、多様な人材力**」の集団である
- ④ グローバル企業レベルの「**事業と利益の規模**」を持つ
- ⑤ 利益を生み出す「**効率性**」が世界水準である

6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定

③ 2011-13中計:ロードマップ



	FY2010 実績	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 予想	FY2013 中期計画	FY2016	※飲料メーカー除く
ROE	5.0%	6.9%	7.8%	8.0%	8%	10%	
営業利益率	6.8%	7.2%	7.2%	7.4%	～7%	8%	
営業利益 ※	694億円	726億円	712億円	750億円	870億円	1,000億円+α	
海外利益比率	53%	51%	52%	59%	56%	—	
海外売上高比率※	37%	38%	41%	49%	—	—	
1株当たり純利益	43.56円	61.28円	74.35円	79.52円	—	—	

※FY2013計画は旧基準。

6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定

④ 2011-13中計:基本方針

1 成長ドライバーの育成

グローバル成長

国内市場を深耕しつつ、新興国・途上国を中心
に市場を開拓し成長を加速

R&Dのリーダーシップ

調味料と先端バイオ関連に資源を
重点投入し、新しい価値と事業を創造

外部資源の活用

飛躍的な成長に向けてオープンイノベーションや
アライアンス、M&Aを機動的に活用

2 事業構造強化

量 (VOLUME) から付加価値 (VALUE) へ

コスト競争力の強化と
付加価値型事業への転換

利益 (OP) からキャッシュ (FCF) へ

設備投資の総枠コントロールと
資産効率の向上

資本効率視点を高め、株主価値の向上へ

事業ポートフォリオと
機能バリューチェーンの適正化

3 基盤構築

グローバル人材育成

グループ・グローバルでの多様な成長とチャレンジの機会
国籍・キャリア等を問わない多様な人材ミックス

グローバルガバナンス

更なるグローバル展開に向けたグループ経営基盤の強化

6) 転換点の創業100周年と2011-13中計策定

⑤ 2011-13中計:構造目標

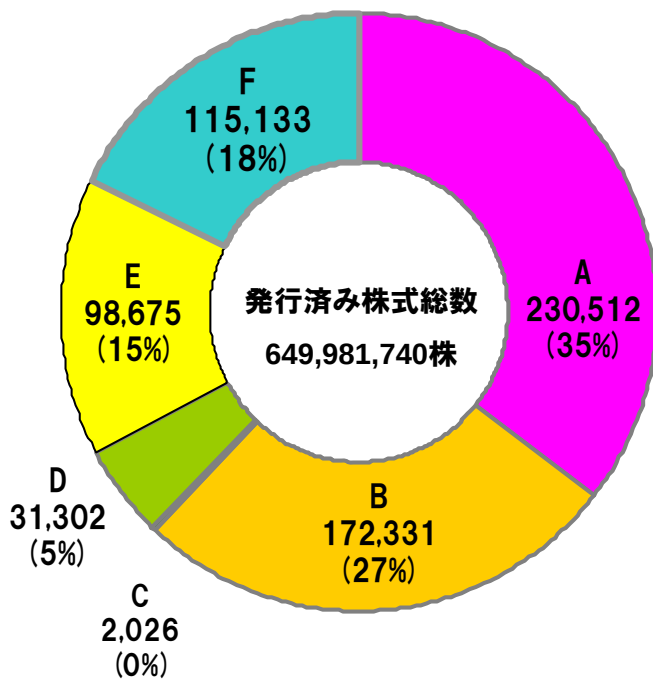
		指標	2010年度	2013年度目標	
1	成長ドライバーの育成	グローバル成長	海外売上比率 海外利益比率	31% 53%	35% 56%
		R&Dのリーダーシップ	将来の成長を担う 全社戦略テーマへの R&D費投入比率	-	40%
2	事業構造強化	量から付加価値へ	付加価値型事業比率 営業利益率	70% 5.7%	80%以上 ~7%
		利益からキャッシュへ	フリーキャッシュフロー	100億円/年 (‘05-’10年度平均)	400億円/年
		資本効率視点を高め、株主価値の向上へ	ROE	4.5%	8%
3	基盤構築	グローバル人材育成	海外法人役員の 現地化比率	34%	50%

7) 株主構成変遷

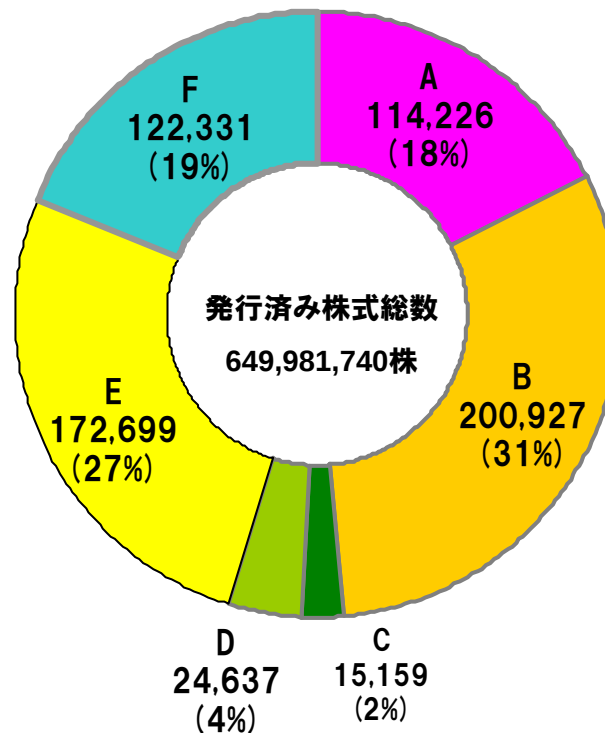
過去10年で大株主比率は減少傾向。国内外投資家の重要性が益々高まる。

グラフ内単位: 千株

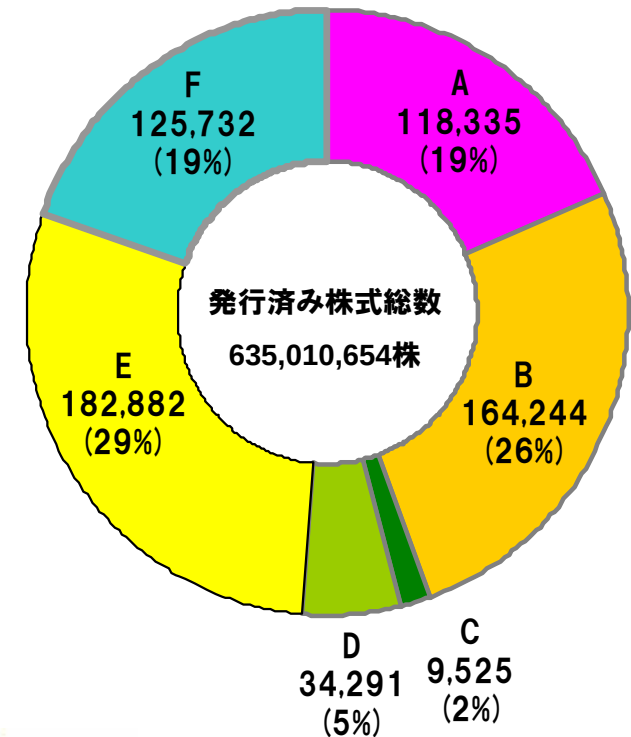
2002年3月末



2007年3月末



2013年3月末



- A 大株主(除、カストディアン)
- B 金融機関
- C 証券会社
- D 事業会社等
- E 外国法人・外国人
- F 個人・その他

III. IR活動の留意点

1) 開示の一貫性・連続性

① 2011-13 中期経営計画説明会（2011/2）

中計期間での主要事業の具体的な施策、実施時期を**ロードマップ**で提示。

ポイント	具体的な施策		FY2011	FY2012	FY2013
コスト競争力の強化	ブラジルを核とするグローバル供給から世界4極地域供給へ	北米：新技術導入による地域供給力強化	完工 (Q2)		
	低資源発酵技術による抜本的な製造プロセス改良	副原料の使用量低減 ('10年にブラジルで導入済)		米国	フランス
		主原料の多様化 ('10年にフランスで開始済)		ブラジル・タイ	
付加価値の増加	新たな高付加価値飼料添加物の開発	バリン	市場拡大		
		イソロイシン ('10年に欧州登録完了済)	市場導入 (Q2~)		
	飼料用アミノ酸の新たな用途開発	乳牛用リジン	テスト販売開始 (Q1~)		
		水産養殖向けアミノ酸 等		導入検討	
強力な事業運営体制の構築	飼料用アミノ酸事業を含む動物栄養事業の100%子会社設立の検討		2011年度中に結論付け		
	生産の一部外部委託		スレオニン (阜豊集団)	アライアンス拡大・追加検討	

1) 開示の一貫性・連続性

② 2012年3月期 決算説明会 (2012/5)

ポイント	具体的な施策		FY2011	FY2012	FY2013
コスト競争力の強化	ブラジルを核とするグローバル供給から世界4極地域供給へ	北米：新技術導入による地域供給力強化	完工(8月)		
	低資源発酵技術による抜本的な製造プロセス改良	副原料の使用量低減(ブラジルで導入済)		米国導入 (FY13/Q2)	
		主原料の多様化(フランスで導入済)	ブラジル導入('12/1)		フランスに加えタイでも導入(FY14~)
			タイCPテスト開始(FY12/Q1→Q2)		
付加価値の増加	新たな高付加価値飼料添加物の開発	バリン・イソロイシン	バリンを優先して市場開拓、販売に注力		
	飼料用アミノ酸の新たな用途開発	乳牛用リジン (AjiPro™-L)	イソロイシン市場開拓		
		水産養殖向けアミノ酸 等	米国にてテスト販売開始(4月)		
				導入検討	
強力な事業運営体制の構築	飼料用アミノ酸事業を含む動物栄養事業の100%子会社の設立		100%子会社の設立('11/9)		
	生産の一部外部委託(実施 スレオニン、阜豊集団、'11/3~)		日本の事業(統括機能等)とフランス、米国の飼料用アミノ酸事業の吸収分割('11/11)		
				OEM等の拡大	

赤字:2011年11月以降の実施・決定事項

1) 開示の一貫性・連続性

③ 2013年3月期 決算説明会 (2013/5)

ポイント	具体的な施策		FY2011	FY2012	FY2013
コスト競争力の強化	ブラジルを核とするグローバル供給から世界4極地域供給へ	新技術導入による地域供給力強化	北米 タイ フランス		
	低資源発酵技術による抜本的な製造プロセス改良	副原料の使用量低減 ブラジルから他工場へ展開	フランス導入	米国導入 (FY13/Q2) (Trp FY12/Q2) Lys (FY13/Q4) タイ導入 (FY14以降)	
		主原料の多様化 フランスから他工場へ展開	ブラジル導入 ('12/1)		タイCPテスト開始 (FY13/Q3)
付加価値の増加	新たな高付加価値飼料添加物の開発	バリン・イソロイシン	バリンを優先して市場開拓、販売に注力 イソロイシン市場開拓		
	飼料用アミノ酸の新たな用途開発	乳牛用リジン (AjiPro [®] -L)	米国にて販売開始 ('11/4)	生産倍増 ('13/Q1)	
		水産養殖向けアミノ酸 等		導入検討	
強力な事業運営体制の構築	飼料用アミノ酸事業を含む動物栄養専門の100%子会社の設立		100%子会社の設立 ('11/9) 日本の事業(統括機能等)とフランス、米国の飼料用アミノ酸事業の吸収分割 ('11/11)		シンガポールにアジア・パシフィック地域の事業統括販売会社設立
	生産の一部外部委託 (実施 スレオニン、阜豊集団、'11/3~)			OEM等の拡大	

赤字:2012年11月以降の実施・決定事項

2) 課題の開示 ～問われる前に明示せよ～

① 医薬事業の経営課題（2012/5）

**2012年5月 中計目標との乖離がある医薬事業について
課題認識、解決の方向性を明示。**

1. 中計とFY2012業績予想との差異

（単位：億円）

	FY11 実績	FY12 業績予想 (A)	中計 FY12 (B)	中計 FY13 (C)	中計FY12との差 (A)-(B)	中計FY13との差 (A)-(C)
売上高	779	760	-	874		▲114
営業利益	65	23	-	82	(▲40～▲45)	▲59

- ・2012年度より収益性が急落し、中期計画との差異が拡大する見通し。
- ・収益性の改善に向け、事業構造の抜本的な見直しが必要。

2. 経営課題と解決への取組み

- 1) 輸液、透析事業の構造強化 → 事業構造の再構築
- 2) パイプラインの充実 → 積極的な外部連携、外部品の導入促進
- 3) オペレーション効率(販売費・一般管理費)の改善 → R&D費、販売体制等の最適化実施

- ・上記1)～3)については、改めて取組みの進捗を説明予定。

2) 課題の開示 ～問われる前に明示せよ～

① 医薬事業の経営課題 (2012/11)

**2012年11月9日 中間決算説明会にて
課題と解決への取組み3点の具体的な内容、進捗を報告。**

1) 輸液、透析事業の構造強化

外部資源の活用も組み込んだ新たな事業スキームへの移行を 2013年度中の実行を目標に
検討中、**今期中に決定し、発表する。**

2) パイプラインの充実

- ① 積極的な外部連携、外部品導入の促進: 導入に対するR&D費資源配分の増強
- ② ラクオリア創薬(株)との共同研究開始: 両社の強みを活かした創薬研究の推進
- ③ 胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン」の販売開始: 2012年7月より販売開始
- ④ 「モビブレップ」(AJG522: 新規経口腸管洗浄剤)および「アクトネル」月1回投与製剤の
製造販売承認取得を目指す
- ⑤ AJH801 (シルニジピン／バルサルタン配合剤)の製造販売承認申請の実施:
2012年10月申請済み

**具体的に開示できないものは、
時期を明示し、進捗を伝える**

3) オペレーション効率(販売費・一般管理費)の改善

- ① 販売体制: 効率的な販売体制の構築
- ② コーポレート部門: コーポレート業務の効率化
- ③ 間接材購買: 購買機能の一元化によるコストダウンの推進

2) 課題の開示 ～問われる前に明示せよ～

② 医薬事業の経営課題に対する取組状況(2012/12)

2012年11月9日 輸液、透析事業の構造強化策を
今期中に決定し、発表する



2012年12月25日 (株)陽進堂との合併会社設立に関する契約締結を発表。
アナリスト向け説明会を実施。



2012年12月25日
株式会社陽進堂
味の素製薬株式会社
味の素株式会社

株式会社陽進堂と味の素製薬株式会社による 戦略的提携に基づく合併会社設立に関する契約締結について

株式会社陽進堂(社長:下村健三、本社:富山県富山市、以下、(株)陽進堂)と味の素株式会社100%出資の子会社である味の素製薬株式会社(社長:豊田友康、本社:東京都中央区、以下、味の素製薬(株))は、輸液・透析事業のさらなる発展と当該領域における治療への一層の貢献を目指して、味の素製薬(株)から輸液・透析事業を分割し、合併会社を設立することに合意。本日、契約を締結しましたのでお知らせします。

1. 合併会社設立の背景及び目的

3) 的確・迅速な情報開示

① タイ国の洪水影響 (TD-NET)

TD-NETおよびホームページ (HP) で洪水被害状況を開示

2011年10月12日(TD-NETおよびHP上の第1報)

- ・洪水により2拠点が操業停止

2011年10月18日(TD-NETおよびHP上の第2報)

- ・タイ国内20拠点の操業状況を開示、4拠点が操業停止

2011年11月7日(決算説明会資料に記載)

- ・上述の第2報のアップデート、5拠点が操業停止

2011年11月24日(TD-NETおよびHP上の第3報)

- ・3拠点が月内操業復旧見通し、他2拠点は代替生産継続

3) 的確・迅速な情報開示

② タイ国の洪水影響（決算説明資料）

生産、物流は他拠点、外部委託などでバックアップし影響を最小限に留める。
人命を最優先しつつ、事業責任を果たすため事業活動の早期復旧を図る。

生産拠点等の状況(11/2現在)。矢印は機能を代替している工場。

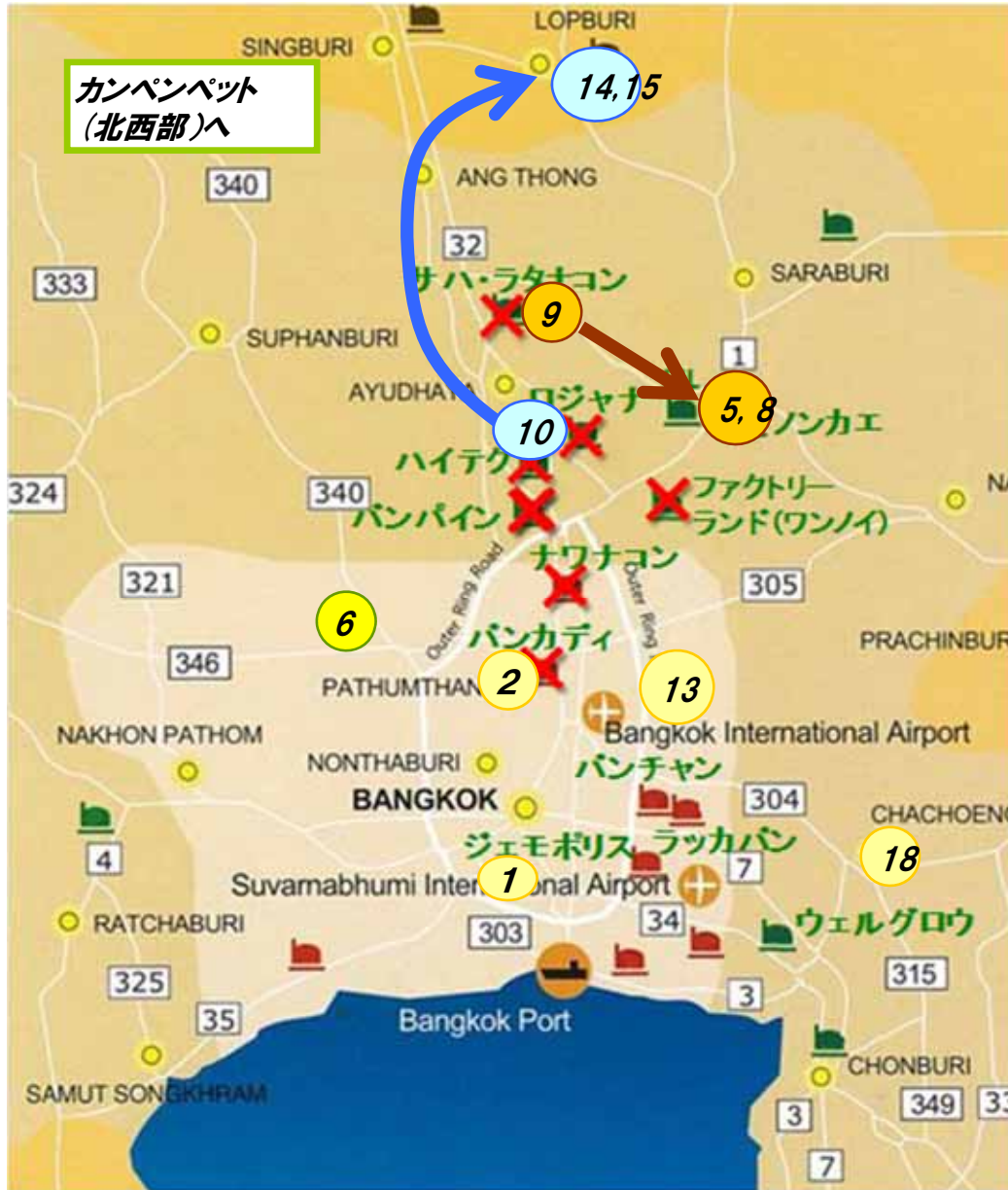
企業名		工場名	所在地	主な生産品目	直近の状況
タイ味の素社	1	プラパデン工場	サムットプラカン 南東部 サムットプラカン県	調味料、粉末飲料 等	操業中
	2	パトンタニ工場	パトンタニ 中部 パトンタニ県	飼料用アミノ酸	所在地区の被災により 操業停止中
	3	カンペンベツ第一工場	カンペンベツ 北西部 カンペンベツ県	調味料	操業中
	4	カンペンベツ第二工場	カンペンベツ 北西部 カンペンベツ県	調味料	操業中
	5	ノンケー工場	サラブリー ノンケー工業団地(中部サラブリー県)	調味料、加工食品 等	操業中
	6	ラルムケオ工場	パトンタニ 中部 パトンタニ県	製品包装	所在地区の被災により 操業停止中
	7	アユタヤ工場(建設中)	アユタヤ 北部 アユタヤ県		
タイ味の素販売社	8	バーディー工場	サラブリー ノンケー工業団地(中部サラブリー県)	飲料	操業中
タイ味の素カルピスピバレッジ社	9	アユタヤ	サハラッタナナコン工業団地(北部アユタヤ県)	飲料	操業停止中
タイ味の素冷凍食品社	10	アユタヤ	ハイテク工業団地(北部アユタヤ県)	冷凍食品	操業停止中
FDグリーン(タイランド)社	11	カンペンベツ工場	カンペンベツ 北西部 カンペンベツ県	肥料	操業中
AETマニファクチャリング社	12	サムットプラカン	サムットプラカン 南東部 サムットプラカン県	ラバーダイニング	操業中
ワンタイフーズ社	13	バンコック	バンコック市内	即席麺	操業中
タイ味の素ベタグロ冷凍食品社	14	ロブリー	ロブリー工業団地(北部ロブリー県)	冷凍食品	操業中
味の素ベタグロ・スペシャルティフーズ社	15	ロブリー	ロブリー工業団地(北部ロブリー県)	冷凍食品	操業中
フジエース社	16	バンブー工場	サムットプラカン 南東部 サムットプラカン県	包装材料	操業中
	17	シンサコン工場	シンサコン工業団地(バンコック)	包装材料	操業中
AQYソース社	18	AQYソース工場	チャチュンサオ 中南部 チャチュンサオ県	調味料	操業中

企業名		機能	所在地	主な生産品目	直近の状況
味の素ロジスティクスタイランド社	19	配送センター	パトンタニ 中部 パトンタニ県		所在地区の被災により 操業停止中
	20	配送センター	カンペンベツ タイ北西部 カンペンベツ県		操業中
	21	配送センター	コンケン タイ東部 コンケン県		操業中
	22	配送センター	スラタニ タイ南部 スラタニ県		操業中

*:工場敷地内への浸水被害はなし

3) 的確・迅速な情報開示

② タイ国の洪水影響（決算説明資料）



アユタヤ県及びバンコク近郊の工業団地。×は被災した工業団地。
(JETROホームページより)

	工場名	生産品目	稼働状況
1	プラパデン	調味料、粉末飲料等	○
2	パントタニ	飼料用アミノ酸	△
5	ノンケー	調味料、加工食品	○
8	バーディー	飲料	◎(9)
6	ラルムケオ	製品包装	△
9	タイ味の素カルピスビバレッジ社	飲料	×
10	タイ味の素冷凍食品社	冷凍食品	×
13	ワンタイフーズ社	即席麺	○
14	タイ味の素ベタグロ冷凍食品社	冷凍食品	◎(10)
15	味の素ベタグロ・スペシャルティフーズ社	冷凍食品	◎(10)
18	AQYソース社	調味料	○

稼働状況 ○: 操業中

◎: 他工場の代替生産実施

△: 所在地区の被災により操業停止中

×: 浸水により操業停止中

ラルムケオ工場分はカンペンペット工場(タイ北西部)にて代替、
飲料(カルピス製品)については外部での委託生産準備中。

3) 的確・迅速な情報開示

② タイ国の洪水影響（決算説明資料）

（FY11中間決算説明会スライドより）

11/2現在までの状況における影響額を推定。

主に物流機能低下による営業面でのチャンスロスが発生することから、営業利益で▲10億円の影響を見込む。

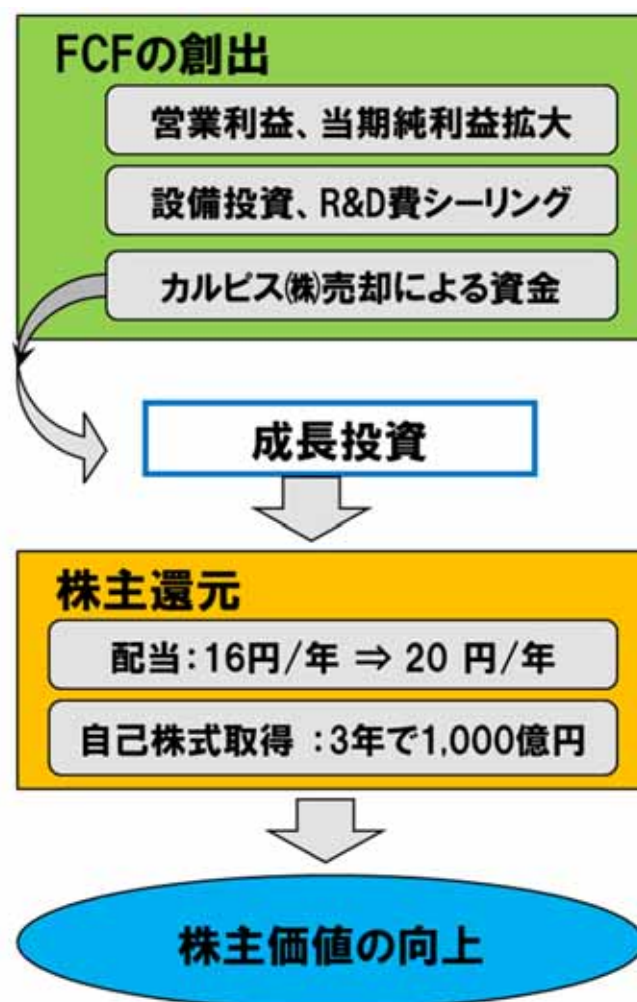
営業利益:工場の被災は代替生産でカバー。

国内ロジスティクス機能低下による販売チャンスロスを見込む。

特別損益:生産設備、棚卸資産等の廃棄が想定されるが、保険金給付にて大部分がカバーされる予定。

4) 自己株式取得

株主還元策として3年連続で自己株式取得を発表。
また、更なる株主還元水準の向上を目的に、年間4円の増配を決定。



('13/05/10 決算説明会資料より抜粋)

キャッシュフローと株主還元 (単位: 億円)

		FY2010	FY2011	FY2012	3年通算
営業CF		1,127	933	885	2,945
投資CF		▲ 459	▲ 417	152	▲ 724
FCF	①	668	516	1,037	2,221
配当支払	②	▲ 112	▲ 110	▲ 106	▲ 328
配当後FCF	①－②	557	406	931	1,894
自己株式取得	③	▲ 200	▲ 500	▲ 300	▲ 1,000
内部留保	①－(②+③)	357	▲ 94	631	894

当期純利益		304	418	484	1,206
総株主還元	②+③	▲ 312	▲ 610	▲ 406	▲ 1,328

IV. 今後の課題

1) 今後のIR活動の課題

1. 長期保有、安定株主の拡大

2. バランスの取れた株主構成の追求

3. 新たなIR活動の充足

1) ESG投資目的の取材に対する、CSR部門との連携強化

2) 当社主催の海外施設見学

4. 外部評価に着目し、更なる改善および自己評価との一致を目指す

おいしさ、そして、いのちへ。

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料の金額は、四捨五入で表示しております。